

新基地建設反対名護共同センターニュース

辺野古海域「活断層シンポ」に300人

辺野古新基地を造らせないオール沖縄会議は14日、那覇市内で「辺野古沿岸域活断層シンポジウム」を開催、300人の県民が参加しました。

目崎茂和三重大学名誉教授、加藤祐三琉球大学名誉教授、立石雅昭新潟大学名誉教授の3人がそれぞれ、辺野古・大浦湾海域の貴重な自然の実態とそこに走っている活断層の可能性について科学的に説明、パワーポイントを駆使してわかりやすく説明しました。



「国は調査結果を公表すべきだ」

加藤さんは「活断層か否かを判断する音波探査を国は実施しており、公表すべきだ」と訴えました。立石さんは「国内外で活断層の周囲に建造物の建設を禁止する条例がある。沖縄でも検討しては」と提案。目崎さんは「埋め立て計画は技術的にも環境的にも問題だらけの設計だ」と指摘しました。参加者は「防衛局がポセイドンなどで多額の税金を使って地盤調査を行った。その結果を公表しないのは不当だ」と怒りの声を上げていました。

「市議選で悔しさの倍返しを」 稲嶺前市長の慰労会に200人

稲嶺進前市長の慰労会が10日名護市内で開かれ、市民200人が集まりました。律子夫人と共に登壇した稲嶺氏（写真）は「市長選の結果に一喜一憂している場合ではない。次の市議会議員選挙で野党が過半数を勝ち取り、新市政のウソをチェックしていこう。歩み続ければ必ず勝利する」と語りました。

参加者は、市長選の悔しさをバネに9月に予定されている名護市議選で「オール沖縄勢力」が過半数を勝ち取ることを誓い合いました。



活断層の真上に新基地建設は無謀
学者が大浦湾に活断層の存在を指摘

「我々はあきらめない」ゲート前で土砂搬入止める



15日早朝の辺野古ゲート前、70人ほどが結集。司会のへり基地反対協仲本興真事務局長が「今日午前中は、搬入作業車は入らないという情報が入っています。うるま市の島ぐるみ会議から大型バスで多くの人が駆けつけたことがあるかもしれない」と報告。
**うるま市島ぐるみ35人
時間を早めて座り込みへ**
うるま市島ぐるみ会議の伊芸佑得事務局長（写真右端）は、「今日からバス出発1時間半早めて、搬入車が来る前の8時半にはゲート前に着くようにしました。名護市長選は残念な結果ですが、我々は絶対にあきらめません。」と報告。
へり基地反対協安次富浩共同代表は「名護市長選の敗戦の悔しさをバネに石垣市長選、名護市議選などを勝利し、翁長知事の再選を展望し、地域から共同を広げていきます」と訴えました。